



実践クラブ
生田 忠照 議員

問 公共施設等の適正管理について

Q 今後40年間で学校などの公共施設を半分にしなければ財政がもたない。火葬場の使用料は無料だが、他の状況と年間維持費は幾らか。

A 無料は本市を含め2市のみ。毎年2600万円以上かかっている。

Q 施設の集約化、複合化、転用等国の有利な地方債が使えたが、その為の計画策定が遅れたのではないか。

A 一年早い27年度で計画を作り事業実施すれば使えたと思う。

Q れいなん会館のジムをゆとりぎの湯の歩行湯の場所に複合化すれば器具の入替えや会館の除却費にも地方債が使えないか。利便性も高まるし会館の維持費も無くなると思うが。

A 集約化事業の場合は、地方債の措置として充当率が90%、交付税参入率が50%の制度である。

問 島原病院の現状について

Q 他市の病院に行く人が意外と多い。診療の実力をもっとアピールしてほしいと思うがどうか。

A 最先端の医療機器も導入されて国内トップ水準の診療科もあるので半島中に周知する事は当然である。

問 雇用創出と人手不足の矛盾

Q 企業誘致をして雇用の場を増やそうとしているが、現場はどこも人手不足。この矛盾をどう考えるか。

A 若者に田園回帰現象があると分析している。ITベンチャー企業の誘致が有効だと考えている。

【その他の質問項目】

◇配偶者控除の見直しについて
◇新設道路交渉の進捗状況について



平成会
濱崎 清志 議員

問 施政方針について

Q しまばらんの活用実績とPR方法は。

A 印刷物やバッジ、キーホルダー、Tシャツなど、184件が企業や団体等で使用されており、フェイスブック等を活用して情報発信に努めていきたい。

Q 銀水の收支実績と来客の内訳は。

A 昨年8月にオープンし、2月末時点で売り上げが約511万円、支出が約481万円。1日平均71名の来客で、市内約20%、県内約40%、県外約38%となっている。

Q 体験型観光の推進とは具体的にどのような内容なのか。

A 既に実施しているかんざらし手作り体験、城下町湧水スポット散策などに加え、島原観光ビューローをバックアップしながら新しいメニューが増えていくよう努力していく。

問 行政関係について

Q 市民のニーズに応える政策立案能力が市職員には求められるが、管理職の資質向上のため、どのような研修をしているのか。

A 自治大学校や市町村職員中央研究所などへの派遣や、職員が講師となっていく自主研修や外部講師による管理職研修などを行っている。

Q 緩んだ行政体質を引き締めるため、人事評価の外部委託が導入できないか。

A 日頃の業務で接する中で人事評価を行うので外部評価はなじまないと考える。

問 ふるさと納税について

Q 収入実績と必要経費はどうなっているのか。

A 今年度は2月23日現在で約2万9千件、約4億4千万円の寄付があり、お礼の品を含む経費は約2億2400万円となっている。

Q 寄付金の市民への還元はどうなっているのか。

A 現在はしまばらん関係の事業に活用し、地域活性化に役立っている。